

宮城県宮城郡利府町森郷方言の待遇表現

大橋 純一

I. はじめに

- (1) 調査対象地：宮城県宮城郡利府町森郷。仙台市より北東へ約15キロ。東部は塩釜市、多賀城市に接する。町は、農業（米、梨）・林業を主産業としてきたが、現在は、ほとんどが兼業である。1997年1月現在、世帯数635、人口2159（森郷地区）。
- (2) 調査年月日：1996年12月29日 午後1時～4時30分
1997年2月14日 午後1時～2時30分
- (3) 主指示者：小山光子 1927年10月1日生（69歳）
同席者：相澤次男 1920年8月22日生（76歳）
相澤道子 1946年10月25日生（50歳）
相澤かな子 1975年10月21日生（21歳）
- (4) 調査者・調査場所：大橋純一、相澤氏宅
- (5) 調査方法：当該調査票による質問調査。
- (6) 表記方法：①方言事象はカタカナ表記とする。
②アクセントは高音部に傍線を付す。
③回答事象が複数にわたる場合は、斜線(/)を付し、列記する。順序は、原則として、指示者の回答順とする。
④指示者の説明は * の後に、筆者の説明は ◇ の後に記す。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

- (1) A お前は元気かね アンタ (～チャン) ゲンキス カ / ナニ スッタノ
B あなたは元気かね ～サン ゲンキス カ / カワリ ネース カ
C あなたは元気かね ～サン (センセー) (ギチョーサン) オカワリ ナイス
カ
- (2) A あしたは家に居るか アスタ エサ エッ カ / エンノ カ
B あしたは家に居るか アスタ エサ エルス カ / エンノス カ / エルノス
カ
C あしたは家に居られますか アスタ ウズサ エンノス カ / エルノス カ
- (3) A あした行くか アスタ エン カー
B あした行きますか アスタ エゲス カー

C あした行きますか アスタ エゲス カー / エグンデス カ / エガレス カ

* ~デスのような言い方はあまりしない。よそ行きのことば。

◇ エガレス カは尊敬丁寧表現イカレマス カの縮約形。いわゆる possible の「レル」ではない。

(4) A 温泉に行かないか トーヅサ エグベー / エグベツ チャ / エガネ /
アベー / アバエン

* アベー、アバエンはどこかへ行く場合の誘いの表現。

B 温泉に行かれませんか トーヅサ エガネス カー / アバエン

C 温泉に行かれませんか トーヅサ エガネス カヤ / エガレス カ

(5) A あしたはどんな仕事をしますか アスタ ナヌ スンノシャー / ナヌ スゴ
ド スンノシャー / ナジョナ コド スンノ
シャー / ナジョナ スゴド スンノシャー

B あしたはどんな仕事をされますか アスタ ナヌ スンノシャー / ナヌ ス
ゴド スンノシャー / ナジョナ コド ス
ンノシャー / ナジョナ スゴド スンノ
シャー

◇ スンノシャーはスンノス ヤーの縮約形。

(6) A 見ましたか ミダツタス カー / ミデシタ カー

B 見ましたか ミダツタス カー / ミデシタ カー

(7) A ゆうべは何時に寝ましたか ユンベナ チンズニ ネスタ カー

B ゆうべは何時に寝ましたか ユンベナ チンズニ ネラレスタ カー

◇ ネラレスタ カーは尊敬丁寧表現ネラレマシタ カーの縮約形。いわゆる possible の「ラレル」ではない。

C そのベッドに寝てください ソノ ベットサ ネテ ケサエン

(8) A どこに行っているか ドゴサ エグノー

B どこに行っていますか ドゴサ エツテ ケダノス カワ / エツテ ケダノッ
シャ

C どこに行っていますか ドゴサ エツテ ケダノス カワ / エツテ ケダノッ
シャ / エグンデス カ

(9) A どうぞ食べてくれ コイズ クツテ ケロ / アガエン / タベテ サエン

B どうぞ食べてください コレ アガツテ ケサエン

C どうぞ食べてください コレ アガツテ ケサエン

(10) A その写真を私に見せてくれないか シャシン ミセテ ケロー / ミセ サエ
シ

B その写真を私に見せてくださいますか シャシン ミセテ ケサエン

C その写真を私に見せてくださいますか シャシン ミセデ ケサエン

1-2 第三者敬語

(11) A あしたは家に居るだろう アスタ アノ シト イッペ ヨー / エンデ ネー
ガヤー

B あしたは家に居るだろう アスタ ~サン エンデ ネーノ / エッカモ スレ
ネー / エッカモ シャネー

C あしたは家におられるでしょう アスタ ~サン (センセー) (ギチョーサ
ン) エッカモ スレネー / エッカモ シ
ャネー

(12) A 居なかった アノ ヒト エネガッタ ヨ / エネ ヨ

B 居なかった ~サン エネガッタ ヨ / エネ ヨ

C 居なかった ~サン (センセー) (ギチョーサン) エネガッタ ヨ / エネ
ヨ

(13) A そう言った ソー エツテマシタ ヨ / ユツテマシタ ヨ

B そう言った ソー エツテマシタ ヨ / ユツテマシタ ヨ

(14) A 今そこに行っていた アノ ヒト ソゴサ エツテタッター / キッタッター
ヨ / キテタ ヨー

B 今そこに行っておられた ~サン ソゴサ キテ エタッター

C 今そこに行っておられた ~サン (センセー) (ギチョーサン) ソゴサ キ
テ エタッター

(15) A 友達が来ている トモダチガ キッタンダー

B Aさんが来ている Aサンガ キッタンダケドモ

C Bさんが来ている Bサンガ キッタンダケドモ

(16) A Aさんが仕事をしている Aサン エマ スゴド ヤッテンダケドモ / スッ
タヨーダ ヨ

B Bさんが仕事をしている Bサン エマ スゴド ヤッテンダケドモ / スッ
タヨーダ ヨ

(17) A 見せてもらった メセデ モラッタ / メセラッタ

B 見せてもらった メセデ モラッタケンドモ / メセラッタケンドモ

C 見せてもらった メセデ モラッタケンドモ / メセラッタケンドモ

(18) A 見せてくれた メセデ ケダ

B 見せてくれた メセデ ケダ

C 見せてくれた メセデ ケダ

(19) A 私にくださった ケデ ケダ / ケデ モラッタ / ケラッタ / ケデ クラッ
タ / ケデ ヨゴシタ

B 私にくださった ケデケダ / ケデモラッタ / ケラッタ / ケデクラッタ / ケデヨゴシタ

- (20) A いただいた モラッタ
B いただいた モラッタ

2. 謙讓表現

2-1 謙讓表現

- (21) A 私も元気だよ オラモ ゲンキダ ヨ
B 私も元気だよ ワダスモ ゲンキダ ヨ
C 私も元気だよ ワダスモ ゲンキダ ヨ
- (22) A 十分に食べました イッペー タベダガラ
B 十分に食べました イッペー タベダガラ
- (23) A 持ちましょう ~サン ワダスが モッテ アゲッカラ
B 持ちましょう ~サン (センセー) (ギチョーサン) ワダスが モッテ アゲッカラ
- (24) A 待たせたね ゴメン ネー。 マダセダ ネー
B お待たせしました オマダセシマシタ ネ。 ~サン
C お待たせしました オマダセシマシタ ネ。 ~サン (センセー) (ギチョーサン)
- (25) A 駅で待ってるよ テーシャバデ マッテッカラ
B 駅で待っていますよ テーシャバデ マッテルガラ
C 駅で待っていますよ テーシャバデ マッテルガラ
- (26) A 言ってくれ スグ ケッカラト ユッテデ ネ / ユッテ ケサエン
B 言ってくれ スグ カエッカラト ユッテ ケサエン ネ
C 言ってくれ スグ カエッカラト ユッテ ケサエン ネ
- (27) A これをやろう コレ ヤッカラ
B これをあげましょう コレ アゲッカラ
C これをあげましょう コレ アゲッカラ

2-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった フグッコ カッテケダ / カッテケダ ヨ / カッテケダ
ンダケド
B 買ってやった フグッコ カッテケダ / カッテケダ ヨ / カッテケダ
ンダケド
C 買ってやった フグッコ カッテケダ / カッテケダ ヨ / カッテケダ
ンダケド

- (29) A 主人はもう帰っている ウズノ オドサン ケーッテ キタ ヨワ
 B 主人はもう帰っています ウズノ オドサン ケーッテ キタ ヨワ

3. 丁寧表現

- (30) A 行くよ エンカラ / エグヨ
 B 行きます エグカラ
- (31) A 今日(今日は)は寒いね キョー サンムガッタ ナー / サンムイネ / サンムイナヤ
 B 今日(今日は)は寒いね キョー サンムガッタ ナー / サンムイネ / サンムイナヤ
 C 今日(今日は)は寒いですね キョー サンムガッタ ナー / サンムイネ / サンムイナヤ
- (32) A 居るよ エッカラ / エッカラー
 B 居ます エマス
- (33) A よかったねえ エガッタネー / エガッタナー / エガッタナヤ
 * エガッタナー、エガッタナヤは主に男性が用いる。
 B よかったですねえ エガッタスネー
 C よかったですねえ エガッタスネー
- (34) A そうか アーホーカー / ンダカー
 * ンダカーは男性のみが用いる。
 B そうですか ソスカー
 C そうですか ソスカー

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1 特定表現の待遇表現

- (35) ソゴノ カドッパダ マガッテ〜 ミギサ エグド〜
 (36) オラデネ / オラシャーネ / ホンナゴトシャーネ / ナニコノシャーネ

4-2 多人数場面の待遇表現

- (37) ナジョニモ シャーネガラ スッカラワ / スッサワ
 (38) コンドノ リョコーサ サンカシャ スクネンデ ミンナラ キョーリョグ シテ ヨケ
 ー サンカスルヨーニ シテ ケサエン

4-3 位相による待遇表現

(39)

《A》

1. オハヨー ゴザリス / オハエガス。 オッサン / オシヨーサン

2. オハヨ^ー ゴザリス / オハエ^ー ガス。 コーチョ^ーセンセ^ー

3～8.

声をかけない。おじぎする程度。相手から挨拶されれば同じことばを返す。

9～14.

オハヨ^ー

《B》

1. ドゴサ^ー エグノ^ッシャ^ー。 オッサ^ン / オショ^ーサン

2. ドゴサ^ー エグノ^ッシャ^ー。 コーチョ^ーセンセ^ー

3～8.

何も言わない。

9～12.

ドゴサ^ー エグ^ア / エグノ^ッシャ^ー

13・14.

ドゴサ^ー エグ^ア / エグノ^ア

Ⅲ. 総括(まとめ)

(I) 当該方言の待遇表現は、以下のような諸項を手段として行われている。

A. 形態的・表現法的手段

a. 特定待遇語の使用

1. 敬称

対者への敬意、その度合いは、多くはこれによって表出し分けられる。教示者の内省(「呼びかけのことばを使い分けさえすれば、その他の部分は相手が誰であろうと大した問題ではない。」)からも、当手段が、当該方言の待遇表現の主要な部面を担っていることがわかる。

例) センセ^ー、コーチョ^ーセンセ^ー、ギチョ^ーサン、オッサ^ン、オショ^ーサン

2. 接辞

イ. 接頭辞

例) オカワリ ナイ《変わりがない》

オマダセシタ《待たせた》

ロ. 接尾辞

例) ～チャ^ン、～サ^ン

3. 文末詞

文末に様々な助詞を添接させることで表現を和らげる。また、単純形(例えば、～カ)

と複合形（例えば、～カヤ）を使い分けるなどして、丁寧さや敬意の待遇をさらに細密に表出する。

例) ～カ (ケ'ソク^カ)、～ヨ (ケ'ソク^タ ヨ)、～ネ (サ'ソム^イ ネ)、～ナ (サ'ムカ^ツ ナ)、
～ヤ (ト'ゴサ^イ ノ ヤ)、～ワ (ス'カラ^リ)、～チャ (イ'ク^ハ ヲ ム チヤ)、～カヤ (ト'ズ^サ イガ^ネ ス カヤ)、～カワ (ト'ゴ^サ イツテ^ケ タ'ノ ス カワ)、～ヨワ (ケ'ツテ^キ タ ヨワ)、～ナヤ (サ'ソム^イ ナヤ)、～サワ (ス'ワ)

4. 助動詞・補助動詞

例) トー'ズサ エガ^レス カ 《温泉に行かれますか》
ナンズニ ネ^ラレスタ カー 《何時に寝ましたか》
オハヨー ゴザ^リス、オハエ ガ^ス 《おはようございます》
～ケサ^エン、～サ^エン 《～下さい》
アバ^エン、アベー 《行かないか》
アガ^エン 《食べてくれ》

◇～ケサ^エン、～サ^エン：～クダサレ > ～ケサレ > ～ケサエ > ～ケサ^エン > ～サ^エン

アバ^エン：アユマレ > アユバレ > アバレ > アバエ > アバ^エン

* 「アグ(ブ)」は、「行く(歩む)」の意味の方言形。

アガ^エン：アガラレ > アガアレ > アガアエ > アガエ > アガ^エン

b. 同義語の、ことばの種類による使い分け

主として、親疎や、丁寧・非丁寧の関係を表出する。

例) オラ ⇔ ワダ^ス 《私》
コイズ ⇔ コレ 《これ》
エサ エグ ⇔ ウズサ エグ 《家に行く》
クツテ、タベテ ⇔ アカツテ 《食べて》
ヤル、クレル ⇔ アケル 《あげる》

c. 簡略形と原形との使い分け

最も顕著にみとめられる使い分けのパターン。「b」同様、親しみ（簡略形）や丁寧さ（原形）の待遇に関わっている。

例) ネー ⇔ ナイ 《無い》
エン ⇔ エル 《居る》
エン ⇔ エグ 《行く》
～ス カ ⇔ ～デス カ 《～なのか》
キタツタ ⇔ キテエタツタ 《来ていた》

マッテッカラ ⇨ マッテルガラ 《待っているから》

～カモ シャネー ⇨ ～カモ スレネー (～かもしれない)

d. 婉曲的表現の使用

言い切りの表現を避け、文末を曖昧にぼかすことで、当人の表現意図や主張を和らげる機能を果たす。一種のへりくだり、謙譲表現。

例) Aサンガ^o キッタダケドモ 《Aさんが来ている》

スゴト ヤッテンダケドモ 《仕事をしている》

ミセデ モラッタケンドモ 《見せてもらった》

イッペー タベダガラ 《たくさん食べました》

モッテ アゲッカラ 《持ちましょう》

B. 音声的手段

ことばの伸ばし縮め、抑揚によって、語気を和らげたり逆に強調したりする。

a. 文末長呼形の使用

例) アスタ エゲス カー 《あした行きますか》

アスタ エッカモ シャネー 《あしたは家に居るだろう》

～サン ソコサ キテ エタッ ター 《そこに行っていた。》

b. 文末イントネーション(上昇調、下降調)の使用

例) コレ アガッテ ケサエン 《どうぞ食べて下さい》

エガッタス ネー 《よかったね》

(Ⅱ) 以上の各手段が、個別に、あるいは相互に結びつき、機能することによって、様々な種類、度合いの待遇表現がなされる。

(Ⅲ) ただし、例えば、上位層の人間に対し、簡略形(ex.～スカ)と原形(ex.～デスカ)の両形を用いることができたり、年長者(女性)に対する場合と目上の男性に対する場合とでそれほど大きな表現上の差異がみとめられなかったりといった具合に、誰をどう待遇するかということと、それを表す表現形式との対応関係は、必ずしも秩序だったものとはなっていない。

(Ⅳ) 当該方言では、全般に、上下関係を表すいわゆる敬意表現形式は榮えず、むしろ、親しみや丁寧さを表す表現形式によって相手を待遇するということの方に、より大きな注意が向けられていると見られる。

(おおはしじゅんいち 東北大学大学院)